

第3回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」も第3回目(全4回を予定)となりました。こどものひろばで活動し、現在、子どもに関わる仕事に就いておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。小学校教諭、幼稚園教諭、スクールソーシャルワーカー、保育士、カウンセラーという様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。こんなことについて書いて欲しい、コラムを読んで感想なども募集しております。



こんにちは、つだです。現在、小学2年生では算数の山場の「かけ算」の学習をしています。私自身、ひろば時代の学習支援や中学校勤務での経験において、かけ算でつまづき、その後の算数や数学の学習に付いていけない子どもたちもたくさん見てきたため自然と熱が入ります。しかし、「しっかり九九を覚えさせてあげたい」という想いとは裏腹に、どんどん次の段へ進めないと間に合わないという現実、色々感じながらも学校での学習だけでは、難しい部分があります。そこで重要かつ差が出やすいのが「家庭」です。毎日家で九九を聞いてもらえる家庭の子はどんどんテストを合格していきます。しかし、親が遅くまで働いていたり、兄弟が多い家庭は、九九を聞いてもらえない⇒テストに合格できない⇒やる気を失っていくという負の連鎖が生まれる現実もあります。もちろん学校でも休み時間を使って練習するのですが、せっかくの休み時間に遊びに行かせてあげられないという心苦しさも感じています。そんな時に「地域に九九を聞いてくれる人が居てくれたら…」と子どもが育つための「地域」の必要性や重要性をひしひしと感じる今日この頃です。



またまた、元 Jr.キャンプのちっちです☆★2 回目のコラムの時は【日頃の子供達の様子】ということについて書かせて貰いました。そんなに面白エピソードとかも全然ないですが、読んでくださってありがとうございます！

私が勤めている職場の“遠足”は動物園に行ったりするのではなく、園バスに乗って自然がたくさんある公園や自然文化園などに出掛けて散策をしたり、園が所有しているキャンプ場へ出掛けたりして遊びます。Jr.キャンプのボランティア時代も子ども達とキャンプをしたり自然の中に出掛けたりしていたので、何だか懐かしいなと思いながら…7年が経ちました(笑)自然が豊かな公園に出掛けては、色んな自然物を見つけて集めたり(色んな色の落ち葉やドングリや色んな木の実など)、拾った物をお家の人へのお土産にしたり、のびのび身体を動かしたり、みんなで野原にある坂道をコロコロ転がってみたり…自然の中でしか出来ないような経験を毎月1~2回園外へ出掛けています！キャンプ場では焚き火をしてお芋を食べたり、マシュマロを焼いたり…雑木林で散策や山登りをしたり…！！同じ学年で出掛けるだけでなく、異年齢(年少・中・長)で出掛けては助け合ったり、お兄ちゃんお姉ちゃんに憧れを持ったりと子ども達同士で刺激しあって成長する姿も見られます\(^o^)/素敵！！自然の中で遊ぶことは、日頃なかなか出来ない経験だと思うのでとっても楽しいですよ！！ぜひ、みなさんも公園で滑り台やブランコ…とかで遊ぶのも良いとは思いますが自然の中で自然物を使って何かを作ったり、遊んだりして色んな経験をしてみてくださいね♪



みなさんお久しぶりです！元練習サポートのびのび担当者 T です！みなさんはサッカーw杯の日本代表戦見てますでしょうか？サッカー好きの私としては、ドイツ、スペインという強豪に勝って突破するなんて思ってもいませんでした！！

さてさてそんな前進を続ける日本代表ですが、不登校をしていた当時の私の気持ちとは正反対だったなあとおもい書き留めておこうかと思います。不登校をしていた当時の私の気持ちとして、ずっと止まっているような停滞感をずっと持っていました。まわりの友人や同世代だけが前進していて自分だけが家の中でなにもせず立止まっている、そんな感覚でした。ただこの気持ちになるのは不登校になってしばらくしてからで、はじめのうちは学校に行けないという事実を否定しようと必死に何とかしようとしては、失敗や挫折を繰り返して自分に対して怒り、自暴自棄に



なっていくという繰り返しの中で自暴自棄や停滞感につながっていったような気がしています。

私はこのような流れを経験しましたが、他の子どもたちも同じような流れになるのでしょうか？まったく同じ環境ではないので感じ方は違うでしょうし、同じように感じているのかはわかりません。ただ、この流れはキューブラー・ロスが提唱した、人が避けられない死を受容していく悲しみの過程を否定・怒り・取引・抑うつ・受容の5段階でモデル化したものに近いのではないかと感じています。そしてその流れは当事者だけでなく、当事者と養育者との関係性や、養育者の心情のプロセスにも当てはめていくことができるのではと感じています。気になる人は調べてみてください！ではまた！



今回は保育時間、仕事時間について触れました。今回は認識、意識について少し…

近年よく父親の育児参加が増加してきたといわれています。

ただどうしても、育児をする意識のレベルは
父親と母親で差が出てしまうと思います
私自身も妻に言われて気づく意識の持ち方がたくさんありました

言われること、見えること
つまり、入ってくる情報によっても意識のレベルは変わってきます
(あ、自分で気づけよ、というご意見はごもっともですが…)

保育士と保護者の日々のコミュニケーションで時々見える姿があります
服装の話、食事の話などの生活についての相談を
保育園お迎えが、母親の時は説明するけど、父親の時は説明しない

もちろん、そこに悪意はなく、「話がすぐに伝わる方に」という意識からです

でも、ここで、自然と、区別なく、コミュニケーションが取れると
意識の持ち方にアプローチができて、結果子どものためになるな…

はい、何が言いたいのか…

いくら、社会の仕組みが整って父親の育児参加と謳うようになってきてはいても
その子どもを取り巻くすべての人が意識改革をしないと
育児に参加するではなくて、仕組みを利用するだけになるなあ

世の中がバラバラだなー

もちろん、ここにアプローチをかけて活動する方々もたくさんいますが
改めて実感をしたお話でした。(谷崎)



こんにちは、ぴーちゃんです。寒くなってきましたね。

今回は私が最近現場で活動している時によく考えていることについて書きます。
日頃カウンセリングやプレイセラピーを行っているのですが、最近、新たな展開を
迎えており、悩むことがいっぱいです。

その中で特に意識して考えないとなと思うことが"枠"についてです。
枠とは「決められた時間、頻度で同じ人と同じ部屋で会う」ことで、枠がクライアント
にとってもセラピストにとっても守りになると言われています。
その枠という守りの中で安心して自由に表現しながら心の作業を進めていきます。
私は最近特に枠の重要さを肌で感じています。

ただ、緊急性を要する現場においては、枠を考えている時間があるのか？とも考えてしまいます。
今後私は様々な現場で働いていく予定です。その現場に適した枠というものを考えることで、被支援者も支援
者も守りになるのだと思います。
これからも現場で研鑽を積みながら考えていきたいなと思います。

